

電気自動車普及協議会 設立のお知らせ

～ 低炭素社会を早期に実現し、未来の子ども達に美しい地球を残すため、
電気自動車の普及に向けた取り組みを開始 ～

地球は急激に温暖化し、世界各地で異常気象による災害が頻発しています。また、温暖化は、動植物の生態系をも変化させ、生物の多様性が失われて始めています。中国、インド、ロシア、ブラジル等の成長国の発展は、新たな世界経済を牽引していくことでは歓迎すべきことですが、内燃機関自動車の急速な市場拡大によって、石油をはじめとする化石燃料の大量消費による地球環境の破壊とエネルギー資源の枯渇という問題を引き起こしつつあります。これらの問題を解決するために、環境エネルギー革命の推進による新産業創出が求められています。このような背景の下、低炭素社会を早期に実現し、未来の子ども達に美しい地球を残すため、電気自動車(EV)産業という新たな産業創出の視点から、EVの普及促進、啓蒙活動、また電気自動車もたらす新しい未来環境を提言、整備することを目的として、平成22年6月29日、下記役員構成とする電気自動車普及協議会を発足致します。

本協議会ではEV関連の事業や研究、普及活動を行う事業者、研究機関、各種団体をネットワークでつなぐことによって情報の共有を図り、現在個々に行われている既存ガソリン車の電動化活動等を支援するとともに、既存および新規自動車メーカーのEV事業への参入を促進します。また、電気自動車の広報宣伝や政策提言を行うことによって、電気自動車の社会基盤整備に努めてまいります。

謹白

<記>

電気自動車普及協議会 役員

- 【 会長 】 福武 總一郎 (株式会社ベネッセホールディングス 取締役会長)
- 【 代表幹事 】 中島 徳至 (株式会社ゼロスポーツ 代表取締役社長)
- 【 幹事 】 田嶋 伸博 (株式会社タジマモーターコーポレーション 代表取締役会長)
藤原 洋 (株式会社ナノオプトニクス・エナジー 代表取締役社長)
- 【 アドバイザー 】 舘内 端 (自動車評論家)
草加 浩平 (東京大学 工学系研究科特任教授)
村沢 義久 (東京大学 総長室アドバイザー)
鈴木 高宏 (長崎県 産業労働部政策監 EV&ITS推進担当)
- 【 監査理事 】 木村 忠昭 (株式会社アドライト 代表 公認会計士)

以上

【本件に関する連絡先】

電気自動車普及協議会 事務局

担当：寺田

〒160-0023 新宿区西新宿 6-10-1

日土地西新宿ビル 8階

T E L : 03-5325-3365 F A X : 03-5325-3366

E-mail : info@apev.jp

公式 website: <http://www.apev.jp/>

公式 Twitter アカウント: @apevjp

<< 電気自動車普及協議会 参加企業・団体一覧 >>

アールアンドスポーツディベロップメント株式会社
株式会社イクリプス
株式会社井上製作所
愛媛県(EV 開発センター)
有限会社オールドボーイ
岡山県
オリックス自動車株式会社
株式会社カースタイリング出版
株式会社ガリバーインターナショナル
慶應義塾大学 電気自動車研究室
国際航業ホールディングス株式会社
関東運輸局自動車技術安全部
JFE エンジニアリング株式会社
株式会社 SIM-Drive
株式会社シャプコン
株式会社ゼロスポーツ
株式会社タジマモーターコーポレーション
THK 株式会社
帝国ピストンリング株式会社
東特塗料株式会社
鳥取県
長崎県
株式会社ナノオプトニクス・エナジー
株式会社日本エレクトライク
日本航空電子工業株式会社
パイオニア株式会社
有限会社富士タクシー
ベタープレイス・ジャパン株式会社
株式会社ベネッセホールディングス
有限会社本田商会
株式会社コビテック
株式会社ローソン

(6月29日現在 順不同)

<< 電気自動車普及協議会 活動内容とスケジュール >>

下記7つの作業部会を運営する。各部会の代表は幹事が務める。

- 1.情報共有:産官学が連携するためのコミュニティを構築し、情報の高付加価値化を生み出していく。
- 2.規格の提唱・標準化の推進:協議会が提唱する水準を設け、業界の信頼性・安全性の向上に貢献する。
- 3.技術教育:自動車技術者や整備士をはじめとするEV関係者への、教育機関や企業などでの教育活動(講師派遣、指導、講義、セミナー、研修の提供など)。
- 4.政策提言:政府、自治体、企業への働きかけを行う。
- 5.実証実験:自治体・企業と連携し、電気自動車のある生活・街づくりを行う。
- 6.資金調達:金融機関やベンチャーキャピタルと連携して、電気自動車事業に投資を行なう企業や新規参入する事業者への支援を行う。
- 7.共同購入・販売:参加者のニーズをまとめ、品質とコストダウンを両立した部品など一定のロット購入や各社の購買の効率化を図る。

活動スケジュール

項目	2010年度	2011年度	2012年度
協議会運営 ・事務局	運営開始 年度内に100社参加	運営安定化 300社参加	500社参加
活動1 情報共有	Web運用開始 参加者満足度80%	Web運用安定化	Web登録者1,500名
活動2 規格の標準化	基礎調査完了	基準提唱	基準適用社が100社超
活動3 技術指導	技術教育体系まとめ セミナー実施	オリジナルプログラム セミナー実施	セミナー参加者3,000名 達成
活動4 政策提言	政策提言まとめ		提言内容の採用
活動5 実証実験	2地域での実証実験開始		実験結果の社会還元
活動6 資金調達	マッチング機会創出	マイクロインベストメント 方式検討	戦略的支援ファンド創出
活動7 共同購入・販売	意向調査完了		共同購入・販売実現

<< 電気自動車普及協議会 役員プロフィール >>

会長 福武 總一郎(ふくたけ そういちろう)

株式会社ベネッセホールディングス 取締役会長
ベネッセアートサイト直島 代表
財団法人直島福武美術館財団 理事長
株式会社SIM-Drive 取締役会長



1945年岡山県出身。1969年早稲田大学理工学部卒業。1973年株式会社福武書店(現株式会社ベネッセコーポレーション)入社。1986年同社代表取締役社長。2007年より同社代表取締役会長兼CEOを経て、2009年より現職。1987年より直島プロジェクトを開始。香川県の直島を、自然とアートで活性化する取り組みを実行。1998年「メセナ国際賞」受賞、2000年「第13回岩切章太郎賞」受賞、2004年ベネッセアートサイト直島に地中美術館オープン、2006年直島での継続的なアート活動に対して「メセナ大賞」受賞、同年香川県文化功労者表彰、2008年芸術選奨受賞など受賞。

代表幹事 中島 徳至(なかしま とくし)

株式会社ゼロスポーツ 代表取締役社長



1967年1月1日 岐阜県生まれ。東京理科大学大学院 総合科学技術経営研究科(MOT) 修了 1994年「ゼロスポーツ」を設立。自動車部品のオリジナルブランドを立ち上げ製品総数500品目内180品目は純正品番取得。パーツメーカーとしてのノウハウを蓄積し自社ブランド車の開発に着手。1998年に電気自動車の開発に着手。2000年国内最高速電気自動車276.6kmを記録。2002年よりEV軽トラックの販売を開始し補助対象車両として8年連続して販売し続けている実績を持つ。2003年には国内17番目の自動車メーカーの認証を取得。以降、様々な電気自動車の開発で多くの実績を上げ、昨年より郵便事業会社向けの集配用電気自動車の実証実験が始まり、今年から全国導入が始まった。

主な現在の公職:「財団法人日本自動車研究所 評議員」「一般社団法人自動車用品小売業協会 理事」

公職歴:「経済産業省 電池技術と自動車に関する検討会 委員」日本自動車マフラー協会 会長

受賞実績:平成十六年七月 経済産業省「経済産業大臣奨励賞」受賞 社団法人日本青年会議所「人間力大賞」受賞

平成十七年十月 国際青年会議所(JCI) TOYP大賞受賞「The Outstanding Young Person of the World 2005(世界の傑出した若者達2005)」Scientific and/or Technological Development(世界の科学技術の発展に貢献分野)

平成十八年四月 各務原市「産業功労賞」受賞

幹事 田嶋 伸博 (たじま のぶひろ)

株式会社タジマモーターコーポレーション 代表取締役/CEO

株式会社スズキスポーツ 代表取締役/CEO



1950年石川県出身。国土館大学工学部卒業。1968年レースデビュー。その豪快な走りで『モンスター』と異名をとり、日本はもとよりアジアを代表するドライバーとしてアメリカ、ヨーロッパでもその名を知られる。

国内では全日本ダートトライアル選手権において、7年連続を含む9回もの全日本チャンピオンに輝いた。また1970年代より日本人選手の草分けとして、海外での国際ラリーにも積極的に参戦し、1979年にはオーストラリアでアジアベストドライバーの表彰を受けた。1988年からアメリカ・パイクスピークインターナショナルヒルクライムに参戦し、1995年には日本人初の総合優勝という快挙を達成。そして2007年には同大会において13年間破られることのなかったコースレコードを破りワールドレコードを樹立する偉業を成し遂げ、現在もワールドレコード保持している。ニュージーランド・レーストゥザスカイでは8回もの総合優勝を獲得し、『キングオブザマウンテン』の称号を得ている。APRC アジアパシフィックラリー選手権では1995 - 1998年の4年連続を含む5回もの二輪駆動部門チャンピオンを獲得するなど、輝かしい成績を修めている。また非常にタフなラリーで知られる香港北京ラリーにおいて二輪駆動部門で何度も優勝を重ね、アジアのラリー界を代表する選手として今も健在だ。

また後進の育成にも積極的に取り組み、JAF全日本ダートトライアル選手権/JAF 関東ダートトライアル選手権などの主催を行いモータースポーツの発展とドライビングテクニックの向上に尽力。尚、自身の著書に『ダート攻略テクニック』があり、ダートドライバーのバイブルになっている。

さらに安全運転のために必要な技術力向上を目指すセフティードライビングフォーラムも全国で開催している。

一方1983年12月に、それまでのモータースポーツ活動の長年の経験・実績を生かし、より多くのモータースポーツマンのサポートができればとの願いから、モンスターインターナショナル株式会社(2005年11月 株式会社タジマモーターコーポレーションへ改組および社名変更)を設立。1986年5月には、鈴木自動車工業株式会社(現スズキ株式会社)と提携を結び、同社の四輪モータースポーツを担当する株式会社スズキスポーツを設立。競技車両および先行開発車両の研究・開発・製造をおこなっている。2002年には、FIA ジュニア世界ラリー選手権(JWRC)プロジェクトの監督に就任。体制作りを含め、世界進出への足掛かりを築いた。そして2007年には、ラリーの最高峰カテゴリーであるFIA 世界ラリー選手権への参戦プロジェクトを推進。チーム監督に就任し指揮を執った。また自動車販売業にも積極的に取り組み、ボルシェ・ブジョー・シトロエンなどの輸入車正規ディーラーを全国展開、更にスズキアリーナ店も首都圏を中心に行っている。

2009年、長年にわたりモータースポーツの世界で培った経験と実績を基に、次世代エネルギーとモータリゼーションの研究開発を行う「ナチュラルエナジー事業部」を設立。自然エネルギーを使った電動化(EV化)やベンチャー企業としてのEV開発などで、世界を駆け回る多忙な日々を送っている。

幹事 藤原 洋(ふじわら ひろし)

株式会社ナノオプトクス・エナジー代表取締役社長

株式会社インターネット総合研究所代表取締役所長

株式会社SIM-Drive 取締役



1954年福岡県生まれ。1977年京都大学理学部卒業。東京大学工学博士(電子情報工学)。日本アイ・ピー・エム、日立エンジニアリング、アスキーを経て、動画像符号化方式の研究・標準化活動を行いIMPEGの創設に参画後、1996年12月、インターネット技術に関する研究開発企業、株式会社インターネット総合研究所設立。代表取締役所長に就任。現在に至る。2005年環境エネルギーベンチャーの株式会社ナノオプトクス・エナジー設立。同代表取締役社長。東京大学、京都大学、国立天文台、名古屋大学、中部大学等との産学連携により「超高精度高速研削」、「直流高温超伝導送電」等の最先鋭技術を研究開発。現在、(財)インターネット協会 副理事長、慶應義塾大学環境情報学部特別招聘教授(環境エネルギー情報論)、東京大学大学院数理科学研究科客員教授、SBI大学院大学副学長。

『ネットワークの覇者』、『科学技術と企業家の精神』など著書多数